



表紙写真：研究所スタッフ
※撮影のためマスクを外しています

がんセンター だより

Tochigi
Cancer Center
Dayori

- P.1-2 ・ 栃木県立がんセンター研究所 新体制スタート
・ 研究所長のご挨拶
- P.3 ・ 泌尿器科のご紹介
- P.4 ・ 緩和ケアセンターからのお知らせ(後方支援担当部署の変更について)
- P.5-6 ・ 新任医師のご紹介

2022年4月1日より栃木県立がんセンター研究所が 新体制でスタートしました 個別化医療の実現を目指す基礎と臨床の連携

栃木県立がんセンターは、本年、5 大事業(病院事業、研究事業、臨床研究管理事業、バイオバンク事業、がん対策推進事業)を新たな方針に掲げ、本格的に事業展開をして参ります。研究事業の一つに研究組織のリニューアルがあり、国立研究開発法人国立がん研究センター研究所より近藤格(こんどう ただし)先生を研究所長に迎えました。これから、がんの個別化医療の実現を目指したトランスレーショナルリサーチを推進します。さらに、長崎大学医学部医学研究科と連携大学院協定を結び、当センターの研究で学位を取得できるようにしました。がん医療の将来を担う医師・研究者を育成し、産学医療連携を力強く進めて参ります。

研究所長のご挨拶

2022年4月1日付けで、栃木県立がんセンター研究所の研究所長を拝命しました近藤格と申します。がん研究は今世紀に入り新たな局面を迎え、遺伝子・タンパク質を網羅的に調べる技術が発展し、転移・再発・治療抵抗性といった臨床的に重要な事象の分子背景の理解が一気に進みました。また、今までの基礎研究の成果から新しい抗がん剤が次々と開発され臨床に応用されるようになりました。その結果、がん種ごとと患者さんごとに最適な治療を施す個別化医療が求められるようになりました。このように研究と医療が密接に結びつく時代の流れを背景に、栃木県立がんセンター研究所では、「あの研究があってよかった」と後の世代に思われるような臨床に役立つ研究成果を目指します。個別化医療の実現に向けて研究所長として精一杯努力して参る所存です。県民の皆様のご支援のほどどうぞよろしくお願い致します。



研究所長 こんどう ただし
近藤 格

研究所の理念

「あの研究があってよかった」と、患者さん、ご家族、
そして医療従事者に思っただけの臨床に役立つ研究成果を目指します。

研究所の使命

1. 個別化医療の実現につながる発見をする

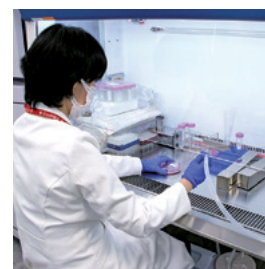
臨床的に重要な事象(転移・再発・治療抵抗性など)に対応する遺伝子・タンパク質の異常を発見し、がんの個性を分子レベルで理解することで、治療法の選択に役立つバイオマーカーや新しい治療標的を発見します。また、患者由来がんモデルやプロテオゲノミクスの技術などを用いて、がんの新しい概念の創出と医療シーズの発見を目指します。

2. 臨床の疑問に最先端の科学技術で答える

診療を通じて得られる臨床的な疑問に答えようと努めることで、基礎研究は発展してきました。臨床医・病理医との日常的なやりとりから臨床の課題をとらえ、最先端の科学技術を駆使してその解決を図ります。

3. 次世代のがんの診療・研究を担う医師・研究者を育てる

がん研究はどの世代においても完遂することはなく、世代を超えた挑戦が求められます。今は予想もつかない革新的な技術や概念が登場する未来において、先導的に活躍できる医師・研究者を育成します。そのために、長崎大学と協定を結んだ連携大学院の制度を活用するなどして、学生から社会人まで幅広く研究者の育成に努めます。



研究所の特徴



今世紀のがん研究の特徴は、遺伝子からタンパク質まで網羅的に分子の異常を理解できるようになったこと、そしてがんの基礎研究の成果が治療法の開発に応用され分子標的薬に代表される新しい抗がん剤がたくさん臨床で使われるようになったことです。がんの理解が分子レベルで深まり治療法の選択が増えたことで、がん種ごと患者さんごとに最適な治療法を施す「個別化医療」の重要性が認識されるようになりました。また、臨床応用に向けた研究への期待がかつてないほど高まってきました。このような時代の流れを背景に、栃木県立がんセンター研究所では研究者と臨床医が連携して「個別化医療」を実現するためのトランスレーショナルリサーチを行います。

転移・再発・治療抵抗性に関連した「がんの個性」の分子背景を解明し、治療法の開発に役立つ分子の異常を発見し、新しい仮説や医療シーズの有用性を検証するために、研究所では次の二つのアプローチをとります。

- 1 腫瘍組織・細胞を体外で長期間培養し、「患者由来がんモデル」として遺伝子・タンパク質や抗がん剤の効果・役割を調べます。腫瘍組織を生き物として扱うことで、薬効評価試験を行ったり、分子の異常の機能的な意味を理解することができます。
- 2 腫瘍組織・細胞の遺伝子・タンパク質の様態を網羅的に調べ、臨床的に重要な事象の背景にある分子の異常を捉えます。重要な分子の異常を調べることで、治療方針を決定するためのバイオマーカーの開発や創薬標的の発見が促進されます。

研究紹介

患者由来がんモデルの樹立と応用

腫瘍組織・細胞から細胞株や実験動物を作成し、「患者由来がんモデル」として研究に使用します。具体的には、抗がん剤の薬効評価試験や遺伝子・タンパク質の機能解析を行います。生体内の腫瘍の性格を保持したモデルを開発し、その応用を図ります。

プロテオゲノミクス解析を用いたがんバイオマーカー開発

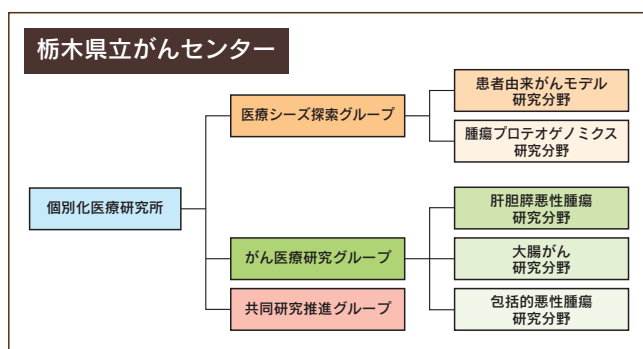
遺伝子からタンパク質まで網羅的に分子の異常を調べることで、浸潤・転移・治療応答性に関連した分子の異常を発見し、バイオマーカーとしての有用性を調べます。ゲノムに発生した異常の理解に基づいたバイオマーカー開発に挑戦します。

がんのトランスレーショナルリサーチ

臨床の疑問点を基礎研究の技術で解決し、基礎研究の成果を治療法の開発につなげるという、基礎と臨床の双方向の連携体制（トランスレーショナルリサーチ）を構築します。産官学医療連携を目指して、大学や企業そして病院との多施設共同研究を行います。

研究所スタッフ

研究所		研究所長	近藤 格
医療シーズ探索グループ	患者由来がんモデル研究分野	グループ長	吉松 有紀
		分野長	吉松 有紀
	腫瘍プロテオゲノミクス研究分野	研究員	甘利 圭悟
		研究員	杉原 豊
がん医療研究グループ	肝胆膵悪性腫瘍研究分野	グループ長	藤田 伸
		分野長	富川 盛啓
	大腸がん研究分野	分野長	藤田 伸
		分野長	近藤 格
共同研究推進グループ	グループ長	杉原 豊	



連携大学院



長崎大学と連携大学院の協定を結んでいます。連携協定によって博士課程に入学された方は、栃木県立がんセンター研究所においてがん研究のエキスパートの指導下で研究を学ぶこととなります。具体的には、臨床応用を目指すトランスレーショナルリサーチを行い、結果を論文にまとめるという一連の流れを修得します。そして、博士課程の最終年度に自分でまとめた論文で長崎大学から学位を取得していただきます。博士課程の講義はe-learning ですので、週末に自宅で受講して単位を得ることができます。論文の読み方は勉強会でしっかり指導します。社会人が学位をとることも可能です。

共同研究



異なる分野の研究者のつながりや産官学医療の共同研究が、臨床応用を指向する研究には重要です。そこで、大学や企業の研究者の方々には、栃木県立がんセンターの医師や臨床医と一緒に研究を行っていただきたいと考えています。共同研究においては、企業がもつ事業化につながるシーズを臨床医の視点で評価したり、臨床検体を用いたバイオマーカーの検証実験を行ったり、患者由来がんモデルを用いた薬効評価試験を行ったりします。臨床に役立つ革新的な製品や発見を目指した研究を行い、共同研究契約の条件のもと対等な立場で研究成果を分かち合います。ご興味のある方は研究所長までご一報ください。

泌尿器科のご紹介

泌尿器科 科長 貫井 昭徳

泌尿器科は尿路、男性性器および副腎などの内分泌臓器に対して診断を行い、かつ内科的および外科的治療を行う診療科です。当センターではこのうち腎、腎盂尿管、膀胱、前立腺、精巣、陰茎、副腎に発生した腫瘍（殆どが悪性ですが、一部良性腫瘍も対象）を主な対象としています。2020年4月から2名の常勤医による新体制となり、2022年4月からは3名の常勤医（中川崇志、植松稔貴、貫井昭徳）と3名の非常勤医で診療に当たっています。また、獨協医科大学泌尿器科学教室から指導、支援を受けており、都道府県がん診療連携拠点病院として質の高いがん診療が提供できるよう努力を続けています。

当科の特長としては低侵襲手術があげられます。ロボット手術指導医、腹腔鏡技術認定医、腹腔鏡下小切開施設基準医が在籍しており、多くの手術において低侵襲手術を行っております。特に2020年9月よりロボット支援下前立腺手術を現在まで60～70例/年ペースで行い、良好な成績を収めており、こちらは栃木県内でも有数の症例数です。ロボット手術以外でも腹腔鏡手術、小切開手術を多数行っておりますが、ロボット手術の適応拡大に伴い、今後はロボット手術可能術式を増やしていく予定です。

診断においては、近年前立腺癌患者が増加しており、また栃木県は前立腺癌検診の先進県であることもあり、多くの要精検患者さんが来院されます。当科ではがん診療に特化している特長を活かし、多くの前立腺生検を行うことが可能です（203例/2021年度）。今後も癌の早期発見を目指し、積極的に生検を行っていく予定です。

また近年、腎癌、前立腺癌および尿路上皮癌を中心に泌尿器がん領域の薬物治療は急激な進歩を遂げています。分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬およびその併用など新しい薬が使用できるようになり、予後が改善しております。当科はそれぞれの患者さんの背景を考慮しつつ、最適な治療を行っております。

当院はがん専門病院として様々な専門スタッフが在籍しており、当科も放射線治療医、腫瘍内科医、緩和ケア科医、各種癌認定看護師、薬剤師などと連携をとり、診療の質を高めるようにしています。院外においてはご開業の先生方を中心とした地域連携を積極的に行っております。これまでも多くの患者さんをご紹介いただいておりますが、引き続き皆様に必要とされる泌尿器科であり続けたいと考えておりますのでご指導、ご支援を賜れば幸いです。



泌尿器科医師

病診連携に関する後方支援業務の担当部門が 緩和ケアセンターに変わりました

2022年4月1日から後方支援業務が地域連携センターから緩和ケアセンターに移管されました。

緩和ケアセンター担当業務

- 退院調整・在宅調整（訪問診療・訪問看護などの医療サービス、介護福祉サービスなどの利用調整など）
- 他医療機関への転院調整・受診調整

前方支援業務（地域の医療機関からの入院・転院相談、患者に関する診療情報依頼への対応、受託検査の予約など）は引き続き、地域連携センターが担当いたします。

緩和ケアセンターでは、緩和ケア推進事業として診断時から切れ目のない緩和ケアの提供体制を目指しています。今回、緩和ケア患者さんを含む全患者を対象に、看護師、医療ソーシャルワーカーが中心となり、在宅医療機関などと連携し患者さんが安心して療養できる環境を支援していきます。

どうぞよろしくお願いいたします。



後方支援に関するお問い合わせ先

栃木県立がんセンター 緩和ケアセンター

☎ 028-611-5471 (直通) (8:30~17:15)

FAX 028-611-5499 (地域連携センターと共有) (8:30~17:15)



新任医師のご紹介



2022年4月から新たに9名の医師が着任いたしました。
どうぞよろしくお願いいたします。



名前 野口 篤人 (のぐち あつと)

診療科・役職 血液内科 医師

趣味 ランニング、筋トレ、ゲーム **出身大学** 日本大学

後期研修 1 年目です。自治医大の血液内科から 1 年間来ています。分からないことだらけですが、がんばります。



名前 三瀬 農 (みせみのり)

診療科・役職 消化器外科 医師

趣味 テニス、スポーツ観戦 **出身大学** 獨協医科大学

未熟な点が多く、御迷惑をおかけすることも多々あるかもしれませんが、頑張ります。御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



名前 弘實 透 (ひろさね とおる)

診療科・役職 骨軟部腫瘍・整形外科 医長

趣味 将棋 **出身大学** 慶應義塾大学

骨軟部・骨転移の診療に携わります。頑張ります。何卒宜しくお願い致します。



名前 中村 鴻志 (なかむら ひろし)

診療科・役職 骨軟部腫瘍・整形外科 医師

趣味 筋トレ **出身大学** 上海交通大学医学院

腫瘍専門施設ではじめての勤務となります。至らぬ所も多いかと思いますが、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



名前 植松 稔貴 (うえまつ としたか)

診療科・役職 泌尿器科 医師

趣味 サッカー 出身大学 獨協医科大学

皆さんのお役に立てるよう精一杯努めてまいります。よろしくお願いいたします。



名前 中川 崇志 (なかがわ たかし)

診療科・役職 泌尿器科 医師

趣味 キャンプ 出身大学 獨協医科大学

後期研修 1 年目の中川崇志と申します。至らない点が多々あるかと思いますが精一杯頑張ります。よろしくおねがいいたします。



名前 前 葭葉 貴弘 (よしば たかひろ)

診療科・役職 婦人科 副科長

趣味 スポーツジム通い

よろしくお願いいたします。



名前 前 青木 裕一 (あおき ゆういち)

診療科・役職 肝胆膵外科 医長

趣味 読書 出身大学 昭和大学

自治医科大学附属病院から来ました。肝胆膵外科 青木裕一です。不慣れなことも多いと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



名前 前 中西 亮 (なかにし りょう)

診療科・役職 大腸骨盤外科 医長

趣味 読書、スポーツ観戦 出身大学 北里大学

がん専門施設では初めての勤務となります。迷惑をかけることも多々あると思いますが、宜しくお願いいたします。

医療機関の皆様へ予約窓口のご案内

ご紹介いただきありがとうございます。当センターでは、患者さんの症状やご希望に応じた外来診療予約を心がけております。ご予約の際は、下記までご連絡ください。

予約センター ☎ **028-658-5012**

受付時間 平日 8:30 から 16:30

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- 保険証、各種医療証
- 診療情報提供書(紹介状)

- 各種検査結果、画像データ(お持ちの方のみ)
- お薬手帳(お持ちの方のみ)
- 当センターの診察券(お持ちの方のみ)

●病診連携に関するお問い合わせ

地域連携センター

☎ **028-611-5503**

平日 8:30 から 17:15

●がんに関するご相談

がん相談支援センター

☎ **028-658-6484**

平日 8:30 から 17:00

●がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療についての予約やお問い合わせ

ゲノムセンター

☎ **028-611-5480**

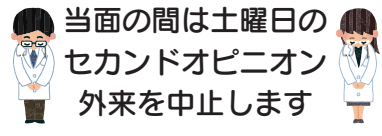
平日 8:30 から 17:00

セカンドオピニオン外来のご案内

■平日午後

	月	火	水	木	金
消化器外科	主に胆・膵		菱沼 正一 (第2週のみ)	菱沼 正一 (第1・第3・第4・第5週のみ)	
	主に肝			尾澤 巖	尾澤 巖
	主に大腸				
頭頸科	主に食道・胃			藤田 伸 松下 尚之 藤田 剛 林 雅人 (※過毎の交代制)	
	頭頸科			横島 一彦	横島 一彦
肩軟部腫瘍・整形外科	菊田 一貴				

■土曜日午前

 <p>当面の間は土曜日のセカンドオピニオン外来を中止します</p>	
---	--

※予告なく変更となる場合があります

予約センター ☎ **028-658-5012**(直通) 受付時間 平日 8:30 から 16:30



交通のご案内

電車・バス

- JR宇都宮線「宇都宮駅」より
→西口から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗車。「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。(乗車時間約25分)
- 東武宇都宮線「江曾島駅」より
→東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗車。「がんセンター前」で下車。徒歩1分。(乗車時間約5分)

自動車

- 東北自動車道「鹿沼I.C.」より
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を超え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。(約9.4km)
→東北自動車道「鹿沼I.C.」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曾島方向へ左折し7つ目の信号を左折。(約8.2km)

がんセンター
たより Tochigi Cancer Center Daieri vol.25

5月号
令和4年(2022)
5月25日発行

発行 地方独立行政法人栃木県立がんセンター 広報広聴センター
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13
TEL. 028-658-5151(代) FAX. 028-658-5669

